



三重県におけるアカメの標本に基づく確かな記録

笹木大地¹・木村清志²

Author & Article Info

¹ 三重県水産研究所（志摩市）

sasaki.dobo@gmail.com (corresponding author)

² 三重大学（津市）

kimura-s@bio.mie-u.ac.jp

Received 20 May 2025

Revised 22 May 2025

Accepted 22 May 2025

Published 23 May 2025

DOI 10.34583/ichthy.55.0_69

Daichi Sasaki and Seishi Kimura. 2025. Reliable specimen-based record of *Lates japonicus* (Latidae) from Mie Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 55: 69–71.

Abstract

Japanese *Lates*, *Lates japonicus* Katayama and Taki, 1984 mainly distributed in Kochi and Miyazaki prefectures, and have been recorded from Tokyo Bay to the southern coast of Kyushu, Seto Inland Sea, and Tanega-shima Island. A single male specimen (587 mm in standard length) of *L. japonicus* was collected from Owase, Mie Prefecture, Japan in April 2025. Previously, only a single specimen of *L. japonicus* had been collected from Mie Prefecture in 1990. Thus, the specimen we collected represents the second specimen-based record of *L. japonicus* in Mie Prefecture after an interval of 35 years.

アカメ科 Latidae アカメ属 *Lates* Cuvier, 1828 はアフリカ大陸の湖沼およびインド・西太平洋の淡水、汽水、海水域から 10 有効種が知られており (Fricke et al., 2025), 日本近海にはアカメ *Lates japonicus* Katayama and Taki, 1984 のみが分布する (波戸岡, 2013). アカメは日本固有種であり, 環境省レッドリストでは絶滅危惧 IB 類に選定されている (環境省, 2020). 本種は宮崎県と高知県を中心に, 南日本太平洋沿岸, 瀬戸内海, 種子島から記録されている (Iwatsuki et al., 1993; 波戸岡, 2013). また, 2013 年以降は東京湾, 相模湾, 静岡県南伊豆町, 和歌山県, 大阪湾, 兵庫県神戸市から報告され, 以前よりも東方の海域や内湾環境からの報告が増えている (萩原・島村, 2013; 川嶋, 2013; 池田・中坊, 2015; 山川・瀬能, 2016; 木村ほか, 2019; 磯部・土井, 2021). 三重県においては 1990 年に尾鷲市の定置網で採集された記録が知られている (鳥羽水族館, 1993; 鈴

木・片岡, 1997).

2025 年 4 月 25 日に三重県尾鷲市九鬼町の九鬼漁港において 1 個体のアカメが水揚げされ, 購入後三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本 (FRLM) として保管した. これは三重県におけるアカメの標本に基づく 35 年ぶりの記録となるため, その形態を詳細に記載し, ここに報告する.

材料と方法

計数・測定方法は中坊 (1993) にしたがった. ただし, 体高は津村ほか (2003) にしたがって背鰭基底始部より垂直に下ろした長さとした. 尾鰭長は下尾骨後端から尾鰭中央後端までの距離とし, 鰓耙数については上枝, 中央, 下枝に分けて計数した. 標準体長は体長と表記した. 計測はノギスを用いて行い体長に対する百分率で示した. 生鮮時の体色は固定前に撮影されたカラー写真に基づいて記載した.

Lates japonicus Katayama and Taki, 1984

アカメ

(Fig. 1)

標本 FRLM 65848, 体長 587 mm, 全長 718 mm, 雄, 三重県尾鷲市九鬼町の九鬼湾 (34°00'30"N, 136°15'59"E), 定置網, 2025 年 4 月 25 日, 笹木大地 (岩崎魚店で購入).

記載 背鰭条数: VIII, 11; 臀鰭条数: III, 8; 胸鰭条数 16; 腹鰭条数 I, 5; 鰓耙数 2 + 1 + 7, これに加えて上枝および下枝にそれぞれこぶ状の鰓耙が 4 本ずつある; 側線有孔鱗数 61; 側線上方鱗数 8; 側線下方鱗数 11. 体各部測定値の体長に対する割合 (%): 頭長 35.3; 吻長 7.1; 眼径 4.1; 両眼間隔 5.5; 上顎長 14.7; 眼後長 24.7; 体高 29.7; 尾柄高 12.6; 尾柄長 21.8; 背鰭前長 46.7; 肛門前長 66.8; 第 1 背鰭基底長 19.4; 第 2 背鰭基底長 18.7; 背鰭基底長 41.1; 第 1 背鰭第 1 棘長 3.0; 第 1 背鰭第 2 棘長 5.5; 第 1 背鰭第 3 棘長 15.2; 背鰭最長軟条長 16.0; 臀鰭基底長 12.9; 臀鰭第 1 棘長 4.2; 臀鰭第 2 棘長 6.4; 臀鰭第 3 棘長 7.5; 臀鰭最長軟条長 16.1; 胸鰭長 16.4; 腹鰭長 20.6; 尾鰭長 21.5.



Fig. 1. Fresh specimen of *Lates japonicus* collected from Mie Prefecture, Japan (FRLM 65848, 587 mm standard length).

頭部と体は側扁する。体は高く、第1背鰭第1から第3棘付近で最大となる。吻はやや尖る。体背縁の輪郭は眼窩後縁上方でわずかに凹み、鰓蓋上端の上方で膨出し、第1背鰭始部から第2背鰭第3軟条まではほぼ直線状で第2背鰭基底後端にかけて曲線を描く。体腹縁の輪郭は下顎先端から臀鰭始部にかけてはほぼ直線状、その後尾柄部にかけてゆるやかな曲線を描く。尾柄部は背腹両縁ともにやや凹む。眼は正円形で小さい。鼻孔は2対で眼の前方に位置する。前鼻孔は小さく円形、後鼻孔は細長く前鼻孔と近接する。口は端位で下顎がわずかに突出する。上顎後端は眼窩後縁をはるかに越える。両顎、鋤骨、口蓋骨に絨毛状の歯がある。鋤骨歯帯は三角形。主鰓蓋骨に小さな1棘、前鰓蓋骨下縁に4棘をもつ。鱗は櫛鱗で露出部後縁に極めて微小な棘をもつ。前鰓蓋下部、上顎、下顎、頭部背面は無鱗。両背鰭および臀鰭基底に鱗鞘をもち、腹鰭基部に鱗状突起をもつ。側線は完全で、鰓孔上部から第1背鰭始部にかけて上昇し、第2背鰭基底後端直下付近にかけて下降、その後は尾鰭基底中央にかけて直走する。背鰭は2基でよく近接する。第1背鰭始部は腹鰭始部より後方に位置する。第2背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上よりわずかに前方に位置する。第1背鰭は強固な棘で構成され第3棘が最長で、第3棘から第7棘にかけて短くなる。背鰭軟条は第3軟条が最長で軟条部後端外縁は丸みを帯びる。臀鰭始部は背鰭第2から第3軟条基底直下に位置する。臀鰭棘は第3棘が最長で、軟条は第2軟条が最長。臀鰭軟条部の外縁は丸みをおびる。胸鰭後縁は丸く、第1背鰭第4から第5棘基底直下付近に達する。腹鰭始部は胸鰭始部直下後方に位置する。倒した腹鰭の後端は腹鰭始部と臀鰭始部の中間点付近に達する。尾鰭後縁は円い。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 頭部と体の背方は黄褐色で鱗の縁辺は暗色、腹方は銀白色。第1背鰭棘、第2背鰭、臀

鰭、尾鰭は黒褐色で第1背鰭の鰭膜は棘条に比べ淡い。胸鰭は黄褐色で、腹鰭は暗褐色。光を当てると眼は赤く光る。

分布 日本固有で、東京湾、相模湾、静岡県南伊豆町、静岡県浜名湖から九州南岸の太平洋沿岸、大阪湾、香川県、兵庫県神戸市、別府湾、鹿児島湾、種子島に分布する（萩原・島村, 2013; 波戸岡, 2013; 川嶋, 2013; 岩坪・大富, 2015; 山川・瀬能, 2016; 磯部・土井, 2021; 宮島ほか, 2021）。

備考 本報告で記載した標本は側線鱗数が61であること、胸鰭条数が16であること、生鮮時眼が赤く光ることなどが Katayama and Taki (1984) が示した *Lates japonicus* の特徴と一致したことから、本種に同定された。一方で本標本は側線下方横列鱗数が11であり、Katayama and Taki (1984) に示した12–13より少なかった。しかし、側線下方横列鱗数が11以下の個体もこれまでも知られている（津村ほか, 2003; 萩原・島村, 2013）ことから、この相違は種内変異と考えられる。また、本標本は臀鰭第2棘が第3棘よりわずかに短い（第2棘は第3棘の84.8%）。本種の臀鰭棘は第2棘が最長であるとされているが（Katayama and Taki, 1984; 鈴木・片岡, 1997; 津村ほか, 2003; 岩坪・大富, 2015; 木村ほか, 2019）、第3棘との差は比較的小さい場合が多く [第2棘は第3棘の108.8–145.2%, 平均119.1% (Katayama and Taki, 1984; 津村ほか, 2003; 岩坪・大富, 2015; 木村ほか, 2019のデータから計算)], 池田・中坊 (2015) は臀鰭第2、第3棘はほぼ同じ長さと述べている。このようなことから、本標本の臀鰭第2棘が第3棘より短いことも種内変異であるとみなした。なお、同属の *Lates calcarifer* (Bloch, 1790) は臀鰭第3棘が第2棘に比較して明瞭に長く、Heemstra (2022) は臀鰭第3棘長は第2棘長の2倍と述べている。

三重県においてアカメは1990年に尾鷲市九鬼から得ら

れた体長 70 cm の個体が初記録として報告されている（鳥羽水族館，1993）。Iwatsuki et al. (1993) は全長約 75–80 cm の 2 個体について鳥羽水族館塚田氏の私信として報告し、さらに鈴木・片岡（1997）では三重県における初めての採集例として 1990 年に尾鷲沖から得られた標本に基づいて記録した。鈴木・片岡（1997）の標本は鳥羽水族館（1993）が報告した標本と採集年と採集場所が一致しており、両文献ともに三重県における初記録としていることから、同一の標本であると考えられる。しかし、鈴木・片岡（1997）ではこの標本の体長を 224 mm としており両文献における標本の体長は大きく異なっているが、本標本は所在不明で確認することができない（高村直人，私信）。以上のことから、今回得られた標本は三重県産の 35 年ぶり 2 個体目の本種の標本であり、現存する唯一の標本であると考えられる。また、アカメは度々三重県内の定置網に入網したことがニュースなどで取り上げられるが（日比野友亮，私信），鳥羽水族館（1993）が報告した個体も合わせたすべてが成魚であると考えられ、これまでに標本の体長に疑義がある鈴木・片岡（1997）の記録を除いて三重県から本種の幼魚の報告はない。このことから、三重県において本種が定着している可能性は低く、ここで記載した標本を含めた三重県における記録は偶発的な来遊によるものであると考えられる。

謝 辞

本標本の入手に際して、岩崎魚店の岩崎 肇氏，三重県水産研究所の岡 謙佑氏の協力を得た。文献の入手に際しては、大分マリンパレス水族館「うみたまご」の星野和夫氏および摂南大学の國島大河氏の協力を得た。鳥羽水族館の高村直人氏には同水族館が保管している魚類標本についての情報をいただいた。北九州市立自然史・歴史博物館の日比野友亮氏には三重県のアカメの記録について情報

をいただいた。匿名の査読者には本稿の改訂にあたり適切な指摘をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。

引用文献

- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. Van der Laan (eds.). 2025. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. [URL](#) (12 May 2025)
- 萩原清司・島村嘉一. 2013. 東京湾から採集されたアカメ（スズキ目：アカメ科）. 横須賀市博物館研究報告（自然科学），60: 31–32.
- 波戸岡清峰. 2013. アカメ科，pp. 743, 1956. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会，秦野.
- Heemstra, P. C. 2022. Family Latidae, Barramundi, p. 18. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 3. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部，秦野. xxii + 597 pp.
- 磯部雄太・土井敏男. 2021. 兵庫県神戸市の海域で漁獲されたアカメ *Lates japonicus* の初記録. 南紀生物，63: 77–80.
- 岩坪洸樹・大富 潤. 2015. 鹿児島湾初記録ならびに西限記録のアカメ *Lates japonicus*. 日本生物地理学会会報，70: 239–243.
- Iwatsuki, Y., K. Tashiro and T. Hamasaki. 1993. Distribution and fluctuations in occurrence of the Japanese centropomid fish, *Lates japonicus*. Japanese Journal of Ichthyology, 40: 327–332.
- 環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020. [URL](#) (5 May 2024)
- Katayama, M. and Y. Taki. 1984. *Lates japonicus*, a new centropomid fish from Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 30: 361–367.
- 川嶋尚正. 2013. 伊豆半島小稲地先で採捕された成魚のアカメ. 魚類学雑誌，60: 193–194.
- 木村祐貴・山中智之・松井彰子. 2019. 大阪湾から得られたアカメ *Lates japonicus* : 25 年ぶり 2 例目の記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.18-045 (Mar. 2019), 66: 109–111 (Apr. 2019).
- 宮島尚貴・立川淳也・星野和夫. 2021. 大分県におけるアカメ *Lates japonicus* の記録. プンゴエンス，4: 14–21.
- 中坊徹次. 1993. 魚類概説，pp. viii–xxiii. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会，東京.
- 鈴木 清・片岡照男. 1997. 三重の海産魚類. 鳥羽水族館，鳥羽. 297 pp.
- 鳥羽水族館. 1993. おもなできごと. 鳥羽水族館年報，4: 6–7.
- 津村英志・水野晃秀・山本孝雄・須田康彦・山本貴仁. 2003. 宇和海周辺で記録されたアカメ. 愛媛県総合科学博物館研究報告，8: 23–26.
- 山川宇宙・瀬能 宏. 2016. 相模湾流入河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 16 種. 神奈川自然誌資料，37: 44–52.